

2030年 AI覇権：米中「二つの異なるレース」の深層

米国が「汎用人工知能 (AGI)」という知能の頂点を目指す一方、中国は「第15次5カ年計画」の下でAIの社会実装とインフラ化を推進しています。米国の輸出規制という逆風の中で、中国はDeepSeekのような圧倒的な資本効率を持つモデルや、Huaweiによる独自のハードウェアエコシステムを構築し、独自の技術圏を確立しつつあります。

米国「AGIへの執着」

米国は巨額の資本で知能の限界に挑み、中国は全産業のAI化による社会変革を狙う。



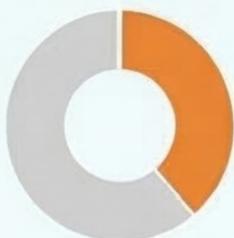
電源の流格

「シリコン」から「電子」と「頭脳」の争いへ



米国を支る中国系科学者が75%急増

米国の監視強化により「通訳流出の運転」が起き、中国のイノベーションを加感。



AI技術への楽観度

39%



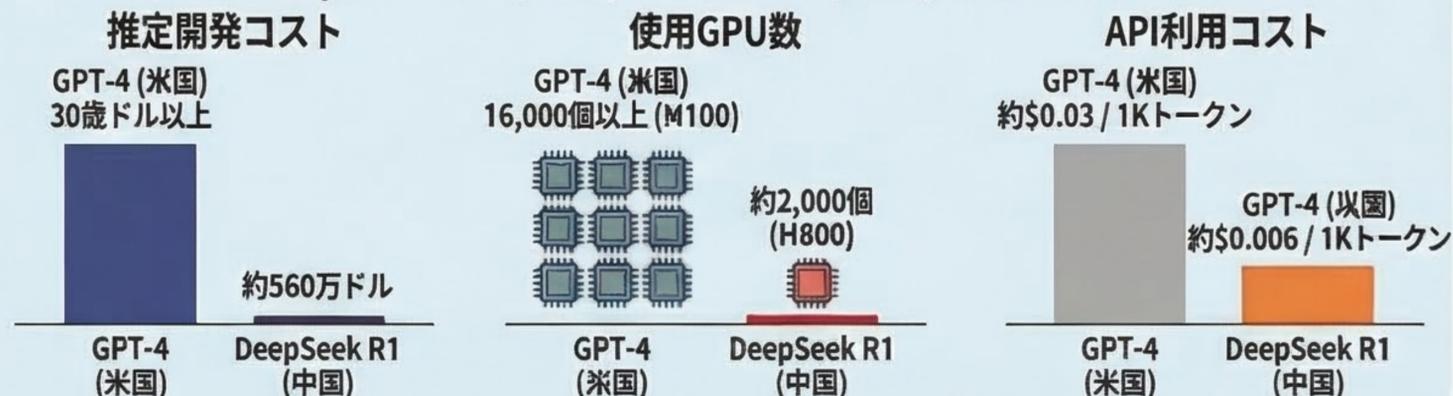
中国「経済の90%へのAI統合」



伝統産業 (効率化) 新興産業 (EV等のリード拡大) 未来産業 (生成AI等の突破口)

中国の産業統合3階層 (2026-2030)

DeepSeek R1 (中国) vs. GPT-4 (米国) リソース効率

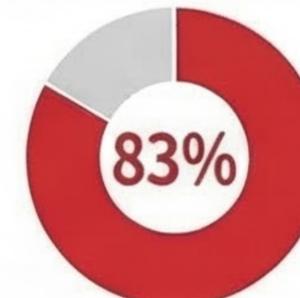


DeepSeek: 米国の「力技」を覆す資本効率
わずか560万ドルの開発費で、OpenAIの30億ドル規模のモデルに匹敵する性能を達成。



再空可能エネルギーによる「電力供給能力」で優位に立つ

AI技術への楽観度



圧倒的な社会的率益協が社会業務の幾力な証数となっている。